

## 群馬県内調剤薬局の動向

一般財団法人群馬経済研究所  
主任研究員 松下 均

### ～要 約～

1. 医師の処方に基づき医薬品を患者に提供する調剤薬局数は、厚生労働省の「薬局」数によると群馬県内では2011年3月時点で758と10年間で2割強増加した。調剤薬局の収入の大半を占める調剤報酬は、県内では11年度時点で782億円と10年間で約2.2倍となった。県内では、調剤薬局数、調剤報酬ともに全国を上回る伸びを示している。
2. 調剤薬局業界では、医薬分業率の上昇により市場拡大という追い風が吹く一方で、薬価のマイナス改定や後発医薬品の取扱い増加による収入減、ドラッグストアの調剤業務参入に伴う競争激化などの課題もみられる。
3. 群馬県内の調剤薬局を対象にヒアリング調査を行ったところ、3年前に比較し収入は減少し、利益も横ばいか減少傾向にある、などの話が聞かれた。また、調剤薬局間の競争は感じておらず、水面下では買収や合併の動きがあるとの声が多かった。
4. また、経営課題については、「後発医薬品の取扱い促進」、「取扱い医薬品数増加に伴う在庫管理の煩雑さと廃棄ロスの増加」、「薬剤師の確保と育成」、「調剤過誤防止と機械化投資」、「在宅業務への対応」などが挙げられた。
5. 今後の経営方針では、①国の方針に従い後発医薬品の取扱い増加と在宅業務への対応に注力し、②良好な案件があれば新規出店や買収により店舗網を拡充したい、等の声が聞かれた。また、中長期的には、一般用医薬品やサプリメント等の売上増加と薬剤師の育成へ取り組みたいという意向を示した調剤薬局もあった。
6. 今後は、医療費増加抑制のための施策が強化され、調剤薬局の経営環境は厳しくなっていくものと思われる。県内の調剤薬局事業者は、国の医療・介護政策へ追随しつつ、医薬品・関連商品の売上増加等による調剤報酬依存からの脱却や地域密着運営の推進、薬剤師の能力向上に取り組む必要がある。